竹内　謙彰教授　略歴と業績

Ⅰ．略　歴

1959年２月	京都府に生まれる
1981年３月	京都大学教育学部教育心理学科卒業
1984年３月	京都大学大学院教育学科研究科修士課程修了
1988年３月	京都大学大学院教育学科研究科博士後期課程満期退学
1988年10月	愛知教育大学教育学部助手
1991年１月	愛知教育大学教育学部助教授
1997年１月	京都大学博士（教育学）取得
2004年３月～12月	連合王国ミドルセックス大学客員教授（在外研究）
2004年４月	愛知教育大学教育学部教授
2007年４月	立命館大学産業社会学部教授
2024年３月	立命館大学定年退職
2024年４月	立命館大学名誉教授

（主な学内役職歴）

2009年１月～2010年３月	産業社会学部人間福祉専攻長
2013年４月～2016年３月	特別ニーズ学生支援室アドバイザー
2013年４月～2016年３月	産業社会学部副学部長
2016年４月～2024年３月	障害学生支援室アドバイザー
2017年４月～2020年３月	産業社会学部学部長（社会学研究科長兼任）および学校法人立命館常任理事・評議員
2021年４月～2023年３月	立命館大学・立命館附属校ハラスメント防止委員会委員
2023年４月～2024年３月	立命館大学・立命館附属校ハラスメント相談員

Ⅱ．専門分野

専門分野　発達心理学・教育心理学

担当科目　人間発達論，児童・青年心理学，発達臨床研究など

学　　位　教育学博士（京都大学，1997年１月）

研究課題　学童期における発達の質的転換期に焦点を当てた子どもの発達的特徴に関する研究，自閉症スペクトラムを中心とした発達に困難を持つ子どもならびに保護者に対する支援に関する研究，空間認知の発達と個人差に関する研究など

所属学会　日本発達心理学会，日本教育心理学会，日本心理学会，日本自閉症スペクトラム学会

Ⅲ．主な研究業績

著書・訳書

１．（分担執筆）『認知と思考―思考心理学の最前線』（サイエンス社，1994年４月）186－212頁
２．（分担執筆）『空間に生きる：空間認知の発達的研究』（北大路書房，1995年５月）138-151頁
３．（共著）『空間認知の発達・個人差・性差と環境要因』（風間書房，1998年12月）
４．（共同監訳）『空間認知研究ハンドブック』（二瓶社，2001年12月）
５．（分担執筆）『ＧＩＳと空間認知―進化する地図の科学』（古今書院，2008年３月）127-140頁
６．（共同翻訳）『場面緘黙へのアプローチ―家庭と学校での取り組み』（田研出版，2009年４月）
７．（共同監訳）『乳幼児期の自閉症スペクトラム障害―診断・アセスメント・療育』（クリエイツかもがわ，2010年８月）
８．（分担執筆）『対人援助科学の到達点』（晃洋書房，2013年７月）94-107頁
９．（分担執筆）『インクルーシブ社会研究 13　自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発の実際』（立命館大学人間科学研究所，2016年３月）89-116頁
10．（分担執筆）『保育・教育に生かす Origami の認知心理学』（金子書房，2018年11月）77-84頁
11．（分担執筆）『インクルーシブ社会研究 22　療育プログラム開発の20年』（立命館大学人間科学研究所，2023年10月）1-12頁
12．（単著）『主体的な学びの探求』（クリエイツかもがわ，2024年３月）

論　文

１．（単著）「子どもにおける概念学習過程の発達的変化について―弁別移行学習と Piaget の発達段階―」（『乳幼児保育研究』10，1984年９月）64-78頁
２．（単著）「幼児における継次情報の処理と保存の発達」（『教育心理学研究』34(3)，1986年９月）280-284頁
３．（単著）「軽い遅れを持つ子どもの幼児期における発達経過と指導」（『乳幼児保育研究』12, 1986年10月）29-44頁
４．（単著）“The developmental change of successive information processing in preschool children: Planning or simultaneous synthesis?”（*Psychologia*, 30(3)，1987年９月）152-159頁
５．（単著）「空間におけるオリエンテーションの発達―文献展望―」（『京都大学教育学部紀要』33, 1987年９月）133-145頁
６．（単著）「利き目―利き足間を中心とした各ラテラリティ指標間の関連の発達的変化について」（『乳幼児保育研究』14，1989年６月）37-46頁
７．（単著）「『方向感覚質問紙』作成の試み（1）―質問項目の収集及び因子分析結果の検討―」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』39，1990年２月）127-140頁
８．（共著）「子どもにおける他者からの『見え』の理解―誤反応パターンの分析―」（『愛知教育大学教科教育センター研究報告』15，1991年３月）35-42頁
９．（単著）「学生における自己の知的側面に関する意識―予備的調査研究―」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』41，1992年２月）129-139頁
10．（単著）「方向感覚と方位評定，人格特性及び知的能力との関連」（『教育心理学研究』40(1)，1992年

３月）47-53頁

11. （共著）「他者視点取得課題の要因についての分析的研究」（『教育心理学研究』40(4)，1992年12月）340-349頁
12. （単著）「幼児における探索的行動と空間能力との関連」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』42, 1993年２月）111-118頁
13. （共著）「乳児期後期における対象探索と移動経験の関係」（『乳幼児保育研究』17, 1994年３月）1-13頁
14. （共著）「幼児に他者視点取得は可能か？― Borke 課題の再検討―」（『教育心理学研究』42(2)，1994年６月）129-137頁
15. （単著）「空間能力の性差は生得的か？」（『心理科学』16(2)，1994年12月）61-75頁
16. （単著）「空間能力の性差は減少してきたか？―空間能力の性差に関するメタ分析的研究の文献展望―」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』44，1995年２月）183-192頁
17. （単著）「小中学生における空間能力と性的ステレオタイプ諸変数との関連」（『発達心理学研究』８(1)，1997年３月）3-14頁
18. （共著）「道徳性及び価値意識の発達に関する日中間の比較」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』48，1999年３月）89-95頁
19. （共著）「慣用的時間概念理解の発達」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』49, 2000年３月）103-107頁
20. （共著）「教養科目授業改善のための調査報告」（『教養と教育：共通科目研究交流誌（愛知教育大学）』１，2001年３月）17-103頁
21. （単著）「ナビゲーション・スキル自己評定の探索的研究（1）」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』51，2002年３月）69-77頁
22. （単著）「ナビゲーション・スキル自己評定の探索的研究（2）」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』52，2003年３月）109-117頁
23. （共著）“Individual differences in wayfinding strategies”（*Journal of Environmental Psychology*，23(2)，2003年６月）171-188頁
24. （単著）「大学生の地図利用行動と感情，経験及びナビゲーション・スキルとの関連」（『地図』41(4)，2003年12月）37-47頁
25. （単著）「幼児は航空写真をどのように理解するか？」（『愛知教育大学研究報告（教育科学）』53, 2004年３月）87-95頁
26. （共著）“Mental Rotation Test performance in four cross-cultural samples (N=3367): Overall sex differences and the role of academic program in performance”（*Cortex*，42(7)，2006年10月）1005-1014頁
27. （単著）「発達の指標としての『心の理論』課題～実行機能の役割に焦点をあてて～」（『愛知教育大学研究報告（教育科学編）』56，2007年３月）87-94頁
28. （単著）「学童期における認知発達の特徴～９, 10歳の発達の節目に焦点をあてて～」（『立命館人間科学研究』18，2009年２月）77-86頁
29. （共著）「自閉症スペクトラム児と親の支援に関する調査研究―親のアンケート調査から―」（『立命館

人間科学研究』19，2009年８月）29-41頁
30. （単著）「高機能広汎性発達障害児のニーズ理解と９，10歳の発達の節」（『心理科学』30(2)，2010年12月）11-22頁
31. （共著）「自閉症スペクトラム児とその家族のニーズについての日本・中国・ベトナム ３ カ国の比較調査研究」（『立命館産業社会論集』47(1)，2011年６月）213-236頁
32. （単著）「幼児が航空写真を空間表現として理解するプロセス：幼児の語りの再分析」（『立命館産業社会論集』47(2)，2011年９月）43-63頁
33. （共著）「舞鶴市における発達障害児の実態とニーズに関する調査研究：保育所・幼稚園における『気になる子』の特別なニーズと発達支援」（『立命館産業社会論集』47(4)，2012年３月）99-121頁
34. （単著）「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ―青年期後期～成人期の子どもを持つ母親に対するインタビューに基づく分析―」（『心理科学』33(2)，2012年12月）46-63頁
35. （単著）「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ―青年期後期～成人期の当事者に対するインタビューに基づく分析―」（『立命館大学産業社会論集』48(4)，2013年３月）41-58頁
36. （共著）「２～３歳児は自己とモノのビデオ映像をどのように理解しているか？（『発達心理学研究』25(3)，2014年９月）302-312頁
37. （共著）「新しい発達診断法開発の試み―幼児期における発達の時期ごとの分析的検討―」（『立命館産業社会論集』50(2)，2014年９月）121-131頁
38. （共著）「幼児期後期・学童期前期における自閉症スペクトラム児の療育プログラム開発―集団でおこなう見立て活動とごっこ遊びを取り入れたプログラム―」（『立命館人間科学研究』31，2015年２月）35-52頁
39. （単著）「高機能自閉症スペクトラム障害を持つ若者の発達課題」（『立命館産業社会論集』51(1)，2015年６月）29-39頁
40. （共著）“A new approach for assessment of child development in Vietnam: Developing tools as developmental checklist for children”（『立命館産業社会論集』51(1)，2015年６月）55-66頁
41. （共著）「青年期前期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発―自主性と協同性をはぐくむ活動の工夫―」（『立命館人間科学研究』32，2015年８月）69-84頁
42. （共著）「学童期後期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発―スタッフの役割の検討―」（『立命館人間科学研究』32，2015年８月）131-142頁
43. （単著）「障害を捉える視点から見たジェンダー研究」（『心理科学』36(2)，2015年12月）9-18頁
44. （共著）「新しい発達診断法開発の試み（２）―幼児期における発達の基本構造の検出―」（『立命館産業社会論集』52(1)，2016年６月））149-168頁
45. （単著）「『三つの願い』質問はどのような心的内容に迫りうるのか」（『立命館産業社会論集』53(2)，2017年９月）63-75頁
46. （単著）「学童期に獲得される計画性とはいかなる能力か？：心理測定的知能と実践的能力の二つの視点から」（『立命館産業社会論集』54(2)，2018年９月）75-84頁
47. （単著）「主体的学びが成立するための条件の探求」（『立命館産業社会論集』56(2)，2020年９月）1-20頁
48. （単著）「小学生における自己理解の研究方法と見出された発達的特徴―日本における20答法を用いた

研究を中心に―」（『立命館産業社会論集』56(4)，2021年３月）1-20頁

49.（単著）「主体的学び態度尺度の作成」（『立命館産業社会論集』57(1)，2021年６月）79-92頁

50.（単著）「成人期における主体的な学び態度：年齢による変化ならびに人生満足度との関連」（『立命館産業社会論集』58(3)，2022年12月）1-17頁

51.（単著）「主体的な学び態度と子ども時代の遊び体験」（『立命館産業社会論集』59(1)，2023年６月）167-179頁

Ⅳ．社会における活動

1994年１月～1995年12月　『発達心理学研究』（発行：日本発達心理学会）編集委員

2000年４月～2004年３月　学童保育みどりくらぶ・第２みどりくらぶ（名古屋）運営委員長

2002年１月～2003年12月　『発達心理学研究』（発行：日本発達心理学会）常任編集委員

2002年４月～2004年３月　名古屋市立東丘小学校 PTA 会長

2003年４月～2004年３月　名古屋市立小中学校 PTA 協議会常任理事

2016年４月～2022年３月　『心理科学』（発行：心理科学研究会）編集委員長

以上